

2021年11月4日 全5頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/11/4号）

個社データ・業界統計・POSデータで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎

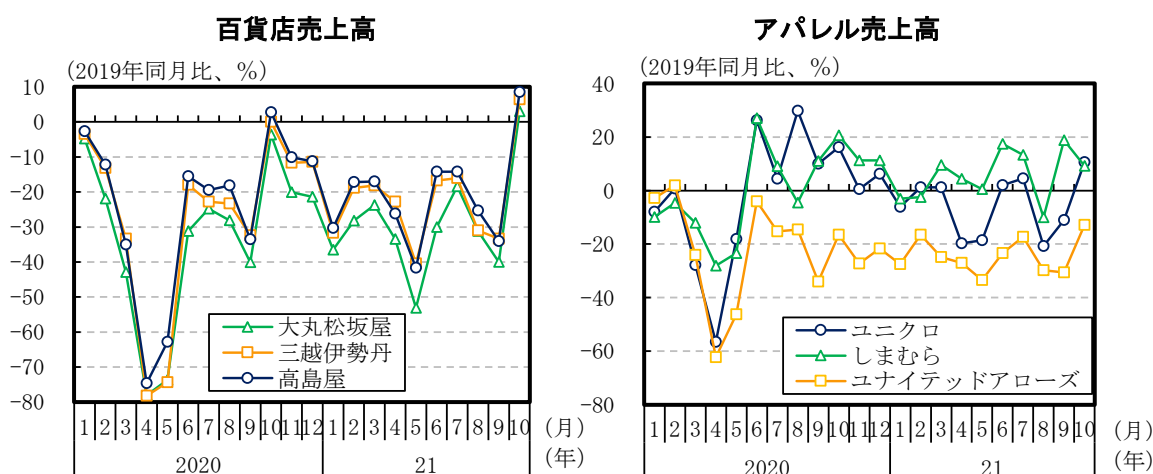
[要約]

- 10月の消費は9月から持ち直したとみられる。財消費は、緊急事態宣言等（以下、宣言等）の全面解除を受け、百貨店の売上高は急回復した。一方、スーパーマーケットや大手家電量販店、コンビニエンスストアなどでは前月から減少した。サービス消費は、人出の回復を受けて前月から増加したとみられる。
- 【小売関連】10月の大手百貨店の既存店売上高の伸び率は2019年同月比で若干のプラスに急回復した。宣言等の全面解除を受け、客数の回復が増加に寄与した。スーパーマーケットの売上高は前月比▲4.8%となった。内食需要の減少が影響したとみられる。大手家電量販店は同▲4.8%、コンビニエンスストアは同▲8.0%といずれも前月に大幅に増加した反動で落ち込んだ。9月に大幅に落ち込んだ自動車販売台数は10月に持ち直したものの低水準にとどまり、部材不足等による生産調整の影響が残存している。
- 【サービス関連】10月の新幹線輸送量は2019年同期比▲2~5割程度、高速道路の交通量は前年比▲1~10%程度といずれも9月からマイナス幅が縮小した。宣言等の全面解除を受け、県をまたぐ移動にも持ち直しの兆しが見られる。また、飲食店情報の閲覧数は9月から大幅に増加し、2019年同月平均比のマイナス幅は年初来で最小になった。サービス消費は11月から12月にかけて持ち直すともみている。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 大手3社の10月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染症拡大前である2019年同月比で若干のプラスに急回復。消費増税の駆け込み需要の反動減で2019年の水準が低い点には留意する必要があるものの、緊急事態宣言等（以下宣言等）の全面解除を受け、客数が増加。
- ◆【アパレル】 10月のアパレル3社の既存店売上高伸び率（2019年同月比）は1社が前月から伸び率が縮小、2社が前月から回復。下旬にかけて気温が低下し季節商品が好調。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

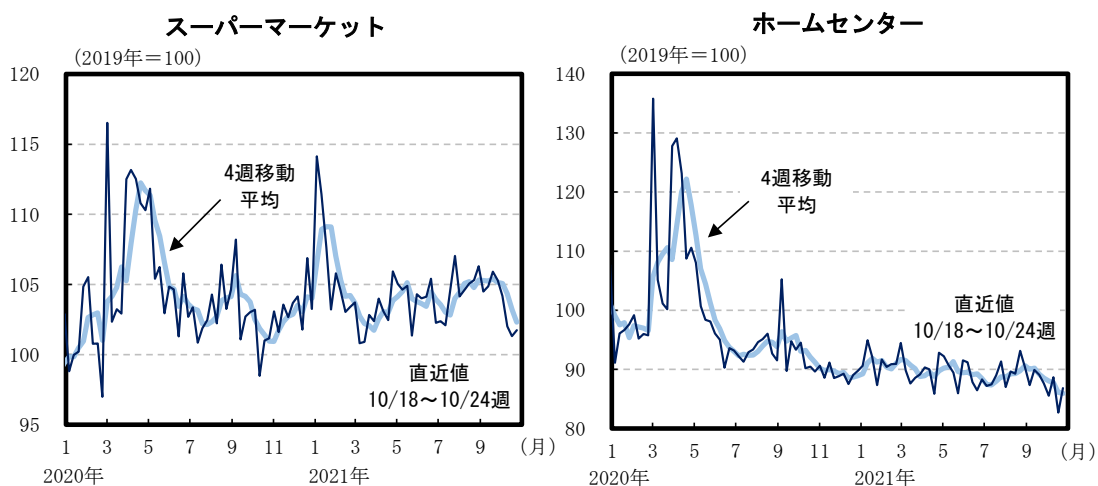
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】 10月の売上高は前月比▲4.8%（大和総研による季節調整値）。食品やヘルスケア関連が押し下げ。宣言等の全面解除で内食需要が減少したもよう。
- ◆【ホームセンター】 10月の売上高は前月比▲2.1%（大和総研による季節調整値）。雑貨やヘルスケア関連が押し下げ。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

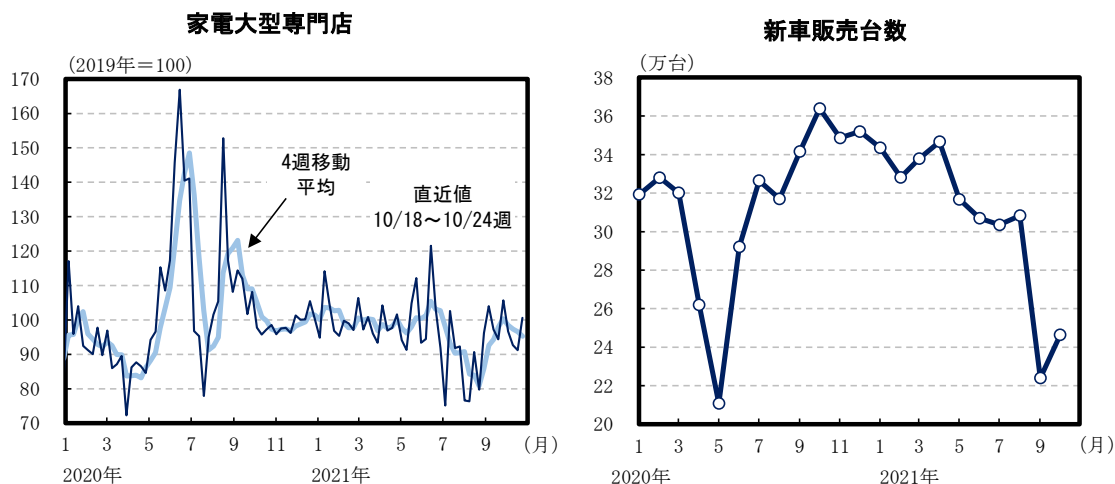


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 10月の大手家電量販店の売上高は前月比▲4.8%（大和総研による季節調整値）。前月に大幅に増加した反動で落ち込む。テレビやパソコンなどが押し下げ。
- ◆【自動車】 10月の新車販売台数は前月比+10.0%（大和総研による季節調整値）。前月からは持ち直したものの、部材不足等による生産調整から低水準にとどまる。

図表3：家電・自動車の売上高



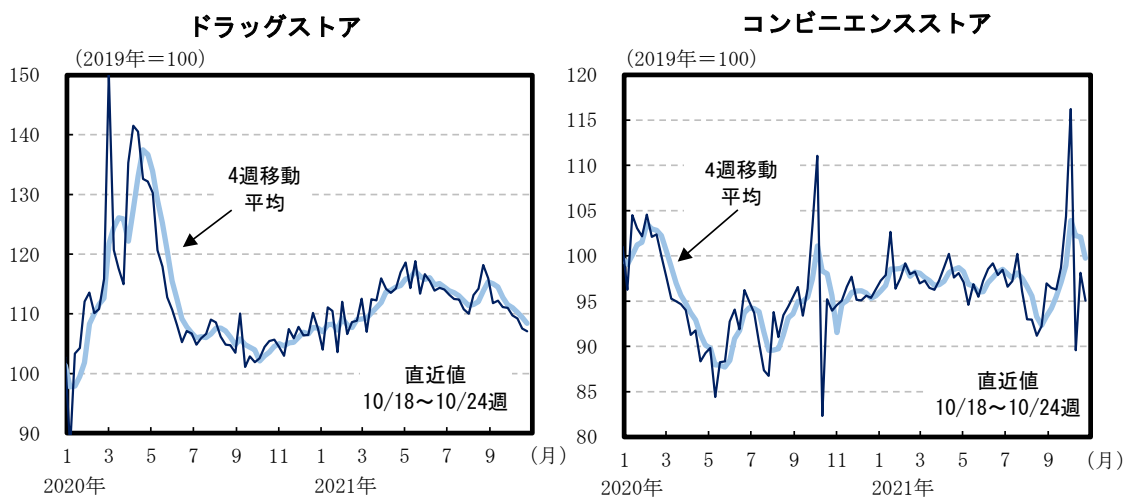
(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

- ◆【ドラッグストア】 10月の売上高は前月比▲2.9%（大和総研による季節調整値）。食品やヘルスケア、化粧品が押し下げ。
- ◆【コンビニエンスストア】 10月の売上高は前月比▲8.0%（大和総研による季節調整値）。飲料や雑貨は好調も、10月に増税されたたばこの駆け込み需要の反動減が発現。

図表4：ドラッグストア・コンビニエンスストアの売上高



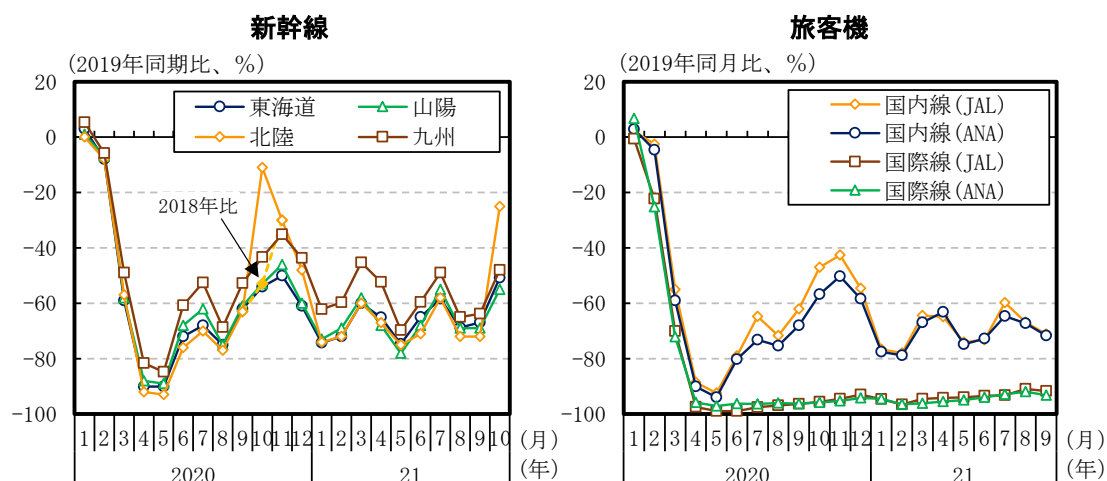
(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】10月の輸送量は2019年同期比で▲2～5割減と9月から回復。宣言等の全面解除を受け、県をまたぐ移動も回復。
- ◆【旅客機】9月の輸送量は、国内線は2019年同月比▲7割程度と8月からマイナス幅が拡大。ただし、10月の国内線の減便率は計画比3～4割程度、11月は同2～3割程度と需要の緩やかな回復が見込まれている。

図表5：新幹線・旅客機の利用状況



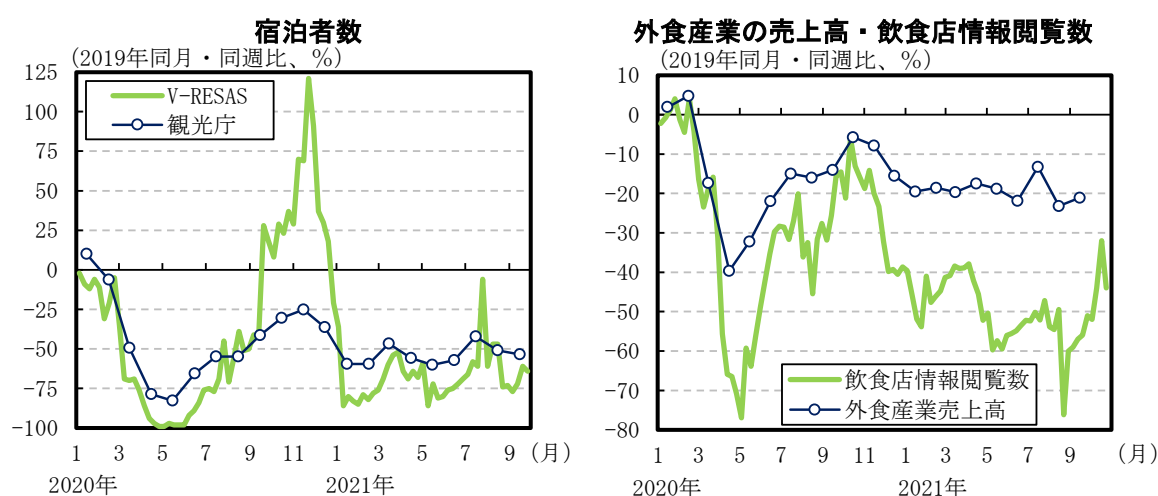
(注1) 新幹線の2021年10月の東海道は26日まで、山陽・北陸は21日まで、九州は24日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】9月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲5割程度と8月から小幅ながらマイナス幅が拡大。下旬にかけて感染状況は改善したものの、慎重姿勢が続く。
- ◆【外食】9月の外食産業の売上高伸び率は2019年同月比▲2割程度と8月から横ばい。10月の飲食店情報閲覧数は前月から大幅に増加。月平均で見ると、2019年同月平均比のマイナス幅は年初来で最小となったが、水準は未だ低い。

図表6：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



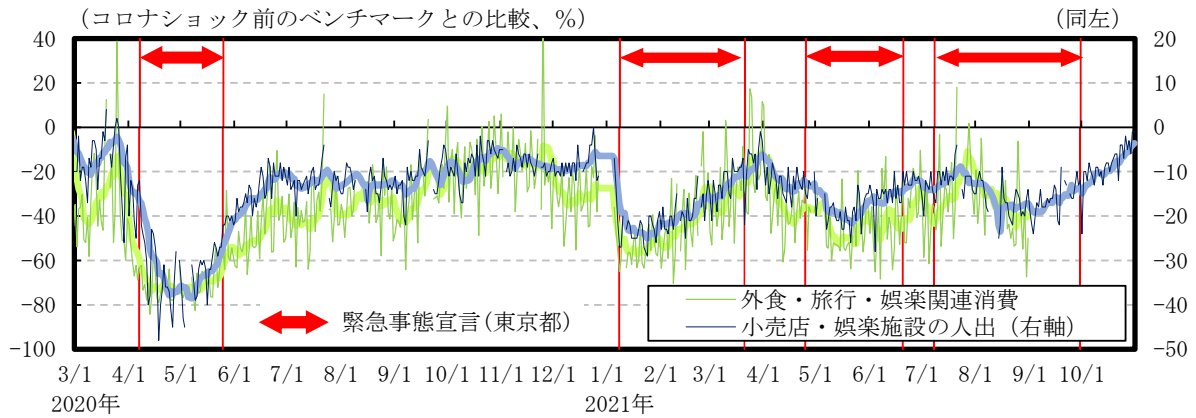
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

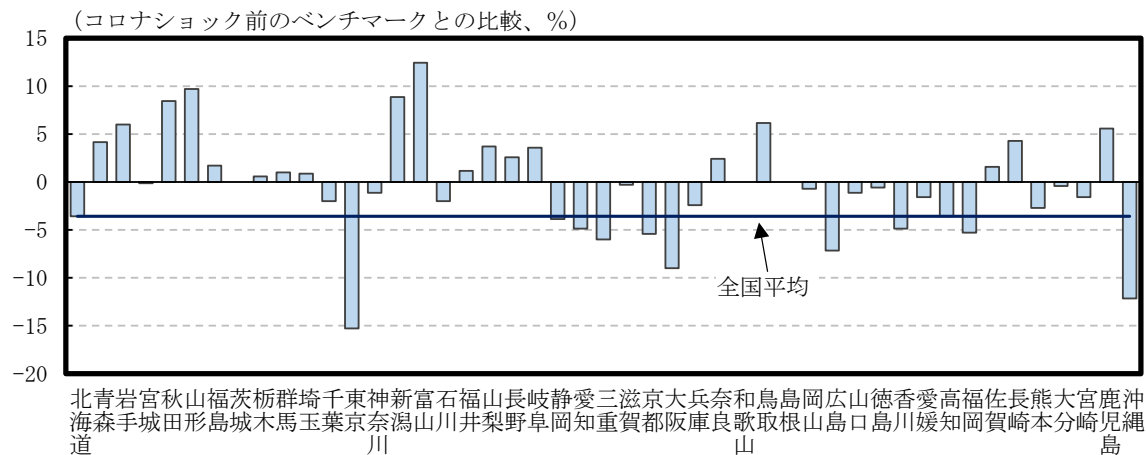
図表 7-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 10/31）と外食・旅行・娯楽関連消費



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

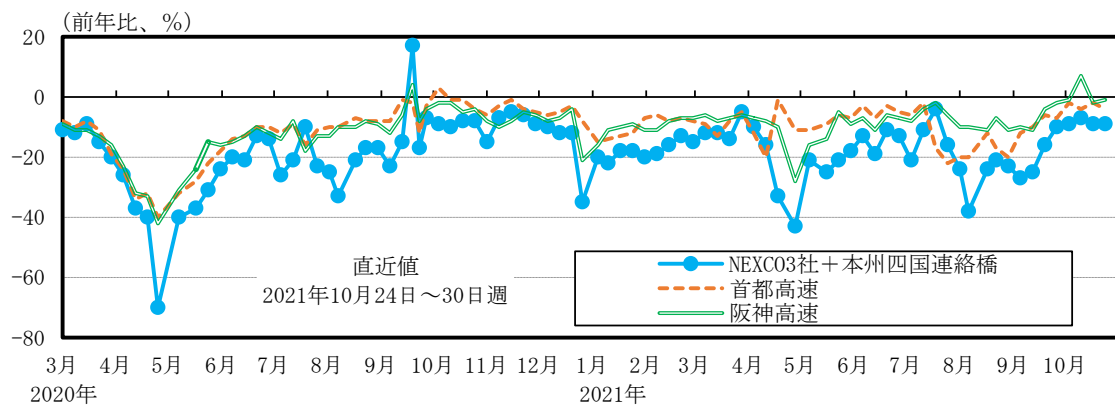
図表 7-2：小売店・娯楽施設の人出（10/25～10/31 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 8：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成